



社会福祉
法人

一人ひとりに愛と希望を

九十九里ホーム

第 13 号

平成17年11月30日発行

ひとつぶの麦

社会福祉法人

九十九里ホーム

〒289-2147

千葉県八日市場市飯倉21

TEL 0479-72-1131(代)

<http://www.99-home.com>



(聖マーガレットホーム 澤田明江さん)

**「・・・わたしたちは重荷を負ってうめいておりますが、それは地上の住みか
かを脱ぎ捨てたいからではありません。死ぬはずのものが命に飲みこまれて
しまうために、天から与えられる住みかを上に着たいからです。」**

—新約聖書「コリントの信徒への手紙 二」—

聖マーガレットホーム澤田明江さんがスティックをくわえてパソコンで描かれた絵は雪景色です。雪が積もると景色が一変して、新しく生まれ変わったような新鮮な世界が広がります。これはいままで下にあったものをぬぐい去るのではなく、その上にかぶさって新しい世界をつくるというあり方です。雪を見ると上の聖書の言葉を思い出すことがあります。新たに生まれることは苦しみをかかえている自分をぬぐい去ることではなく、神から与えられる新しい住みかを着ることである。と言われていました。神に赦されて新しい生命に歩む人間のイメージとして、一つの話があります。ある高名な浮世絵の画家が知人から大きな壺に絵を描くように頼まれ、すばらしい作品が出来ました。ところが、ある日依頼主が割ってしまいました。しかし、画家は破片を拾い集めて根気よくつなぎ合わせ、さらにつなぎめを金泥でなぞって元の絵に金の網がかかったようにして、もっと良い作品に仕上げたのでした。

今年もクリスマスが近づいてきました。救い主イエス・キリストは人類に新しい生命をもたらすためにこの地上にられました。

日本聖公会八日市場聖三一教会牧師 司祭竹内一也

ヘンテ女史の「愛と希望」の精神を受け継いで

—— 九十九里ホーム創立70周年に寄せて ——

社会福祉法人九十九里ホームは、イギリス人宣教師A.M.ヘンテ女史によって結核患者のための保養所として設立されてから、本年10月で70周年を迎えました。この機会にヘンテ女史と創立当初の九十九里ホームを振り返ることにより、あらためて当法人の原点についてご紹介したいと思います。但し、ヘンテ女史はご自身の活動は神によってなされているものと考え、自らの名前が出ることを避けていたため、ほとんどご自身の記録を残しておりません。したがって、正確ではない部分があるかもしれませんが、その点をご容赦下さい。



創立者 A.M.ヘンテ女史

ヘンテ女史の人となりと 伝道・社会福祉活動

ヘンテ女史は、1878年に生まれ、第二次世界大戦中など幾度か日本を離れたものの、人生の多くを日本におけるキリスト教の伝道活動と社会福祉活動に注ぎ、1970年母国イギリスにおいて静かにその生涯を終えました。ヘンテ女史は1905年英国聖公会の宣教師として来日以来、中部地方や西日本における伝道活動を経て、1926年東京の月島教会を拠点として伝道・社会福祉活動に専念しました。

第二次世界大戦直後のシンガポールにおいて、現地において残虐行為を行ったとして、戦争犯罪の罪で死刑執行目前の日本兵を幾度も訪問して神の教えを説き、日本兵のために何度も祈りを捧げ、ついには日本兵も受洗をしてキリスト教徒となりました。そして、日本兵は自らの行為が神の許しを得たとして、処刑の日ヘンテ女史と共に祈りを捧げた後、「今日は幸福な日です。私は間もなくキリスト様にお会いするでしょう」とヘンテ女史に言い残し、心穏やかに死んでいきました。これは、女史自

ら書き残した数少ない記録の中にあるものです。

ヘンテ女史の実家はかなり裕福で多くの遺産を相続したようですが、自らは極めて質素な生活を行い、財産の大半を日本における社会福祉活動に費やしました。ある時、ご自身の家で集会を開いた時に、夜遅くなり多くの参加者が家に泊って、ヘンテ女史の寝る場所がなくなってしまったため、自ら夜具を物干し台に運びそこで寝たものの、雨が急に降り出したので、今度は押入れの中で寝たそうです。ヘンテ女史は困っている人を助け、それが騙されていたとしても、さらに助けることを惜しみなく続け、自らのことはほとんど気にかけませんでした。神の教えを説くことと困っている人を助けることが、神から与えられた自らの使命と考え、それを生涯をかけて実践しました。1950年には、日本における長年の社会貢献活動が認められ、日本政府より勲四等瑞宝章が贈られました。しかし、ヘンテ女史はこのことも自らはいっさい記録には残しませんでした。

老齢と脳卒中を患い、1957年長年愛した日本の地を離れ、ヘンテ女史を慕い女史のお世話を希望した日本人女性と共に故郷イギリスに帰られ、1970年イギリスのボーンマスにおいて、92年間のキリスト教の伝道と困っている人々に「愛と希望」を捧げ続けた人生を終えました。

九十九里ホーム設立の目的

ヘンテ女史は来日以来、様々な社会福祉活動に従事しましたが、その間日本における結核病の深刻な状況について深い理解を持っていました。また、ヘンテ女史自らも父親を長い療養生活の末結核で亡くしていました。その悲嘆はかなりのものであったと推察されます。

昭和初期ヘンテ女史が、伝道と社会福祉活動の拠点としていた東京の月島で、ある時深刻な顔をした青年と出会いました。ヘンテ女史が事情を尋ねると「自分は結核の療養所を出てきたのだが、体が十分には回復しておらず働くにも働けない」とのこと。ヘンテ女史が「どうして体が回復するまで療養しないのですか」と更に尋ねると「家が貧乏でそんな費用はとてもない」と悲しい顔をしたそうです。

ヘンテ女史はその後この青年の世話をするようになり入院させようとしたのですが、当時結核療養所は大変不足しており結局入院できませんでした。当時の結核療養所にはあまりにも患者が多く、十分に回復しないまま退寮し、退寮したものの実社会で働けない人が多く存在したそうです。ヘンテ女史はこの状況を知り、それならばこのような人々が十分に体が回復できるまで安心して休養できるような施設を自ら作ろうと決意したのが、九十九里ホーム設立の動機となったのです。

九十九里ホーム設立までの経緯

自ら結核患者のための保養所建設を始めたヘンテ女史は、以前から懇意にしていた日本聖公会司祭の松本正雄師にこのことを相談しました。ヘンテ女史と松本師は早速保養所の土地探しを始め、銚子の犬吠埼の近くに、保養所に相応しい土地を見つけ計画を進めていたのですが、地元の反対が強く断念せざるを得ませんでした。その後近隣を数か所当たり、交渉したのですがやはり反対にあい難航していました。

そんな折り、八日市場と多古方面で伝道活動をしていたヘンテ女史が、八日市場でバスに乗り、八日市場在住の結核患者の青年のために目を閉じお祈りをしていた時、突然、「目を開けよ、汝の求める土地は此処なり」との神の声が聞こえたそうです。これは、ヘンテ女史が日本を去る直前に自ら九十九里ホームの文集に寄稿した自筆の文章に書かれたものです。さっそくヘンテ女史は、当時八



南方から見た九十九里ホーム

日市場聖三一教会の牧師をしていた松原喜七師に八日市場での土地探しを依頼したところ、八日市場の街中より数キロ離れたところに保養所に相応しい所が見つかり、現在当法人の本部のある場所に結核の保養所を建設することが決定しました。

しかし、結核は当時死の病として非常に恐れられ、いざ建設となるとここにおいても地元の反対は非常に強く、何度も地元住民の方への説明会を開いても了解は得られませんでした。何度目かの説明会の席上、ある地元住民の方が立ち上がり「私は船員としてイギリスに行ったことがあるが、現地でクリスチャンに非常に親切にされた。保養所を建設しようとしているこの人たちは我々に対して悪いことをする人たちにはとても思えない。」と発言したそうです。こ

の発言がきっかけとなり、次第に地元の理解も得られるようになり、何とか建設にまでこぎつけました。

また、行政当局との交渉でもかなり苦労したようです。当時の法規では結核の保養所（医療機関ではない）なるものに該当するものはなく、松本師や松原師が何度も行政に足を運んでも話し合いがつかず、ヘンテ女史の意志を実現すべく、最終的に自己責任において昭和10年10月1日回復期の結核患者のための保養所「日本聖公会九十九里ホーム」として開業しました。費用は全額ヘンテ女史の浄財で賄われました。

設立当初の九十九里ホームの状況

設立当初の定員は、記録に残っているものとしては18名でした。入寮者は当時「患者」ではなく「お客さん」と呼ばれていました。寮費は、一日あたり80銭と、当時の相場は最低でも2円50銭でしたので、破格の安さでした。これもヘンテ女史の貧しく困っている人々を助けたいという意志の表れでした。

当時の経営者や職員は、厳しい経営状況の下で献身的に働き、かなりの苦労をしたようです。それでもさすがに費用が足りず、ヘンテ女史の援助で何とかしのいでいました。これに対して「お客さん」たちの方から、見るに見かねて寮費の値上げと仕事の手伝いの申し入れがありました。当時の九十九里ホームは施設、職員と入寮者が、お互いに助け合い一体感で結ばれていました。

入寮者の中には互いに相和し志を一つにし、助け合うことを目的とした「松丘会」という親睦会がありました。この名前からも分かるように当時の九十九里ホームは、松林に囲まれた丘



正面から見た創立当初の九十九里ホーム



林間で憩う職員と入寮者

の上に建っていました。現在の松丘園は、松林の丘に建っていた当時の九十九里ホームの精神を受け継ぎたいという気持ちから命名されたものです。主任であった林あささんという職員がいましたが、彼女は、献身的に入寮者のお世話をし、入寮者にとってよき「母」でありよき「姉」でもあったようです。入寮者も軽症の方の為、保養所を出て外へ散歩することなども多く、少しでも費用の足しにと近くの川や沼で魚を取り、それが夕食の膳に

上がったりました。このような状況のもと、地元住民の方の理解も少しずつ進み、野菜の差し入れなどをしてくださる方も出てきたようです。

このように九十九里ホームはヘンテ女史の困っている結核患者に「愛と希望」を捧げたいという願いのもとに始まり、多くの方々の努力の上に、その願いを実現すべく一歩一歩進み始めたのです。尚、創立当初以降の九十九里ホームの歩みについて、今後本広報誌にて随時取り上げていく予定です。

レポート

ご自宅でのサービスのご提供

～私たちヘルパーの笑顔をお届けいたします～

九十九里ホームでは"安全に、安心してお過ごしいただくこと"を目標に要介護者の方々への訪問サービスを提供しておりますが、今回は法人内三か所の訪問介護事業所（ヘルパーステーション）をご紹介します。

訪問介護は介護保険制度の中でも在宅生活を支える大きな柱です。「身体介護」「生活援助」を通して地域の皆様のお力になりたいと頑張っております。



ご利用者宅へ出発するホームヘルパー

法人内各種サービスとの連携と共に

— 九十九里ホームヘルパーステーション —

九十九里ホームヘルパーステーションは、住み慣れた地域、在宅での快適な生活を送っていただくため、私たちホームヘルパーが訪問をさせていただく活動を展開しています。

実施地域は八日市場市、匝瑳郡、香取郡と多方面にわたり、営業時間も7時30分から20時30分とご利用者のニーズに応じた対応を心がけています。

ご利用者のご家族から信頼をしていただくため、訪問時には常にご意見やご要望をお伺いし、サービスの質の向上に努めています。

九十九里ホームでは各種の在宅サービスがありますが、お一人お一人を大切に作る気持ちは同じです。法人内各種サービスとの連携を密にし、ご利用者の方々がいいつも笑顔で過ごされることが私たちの願いです。

"その人らしく"を応援します

— 第二松丘園ヘルパーステーション —

第二松丘園ヘルパーステーションは、現在3名のヘルパーがご利用者の心身の状態に応じた訪問介護計画を立案し、サービスを提供しています。

身体介護では、入浴介助、清拭、おむつ交換の援助を提供し、生活援助では、ご利用者と一緒に行う掃除や食事準備を行っています。

寝たきりのご利用者で、発語困難だった方から「ありがとう」と小さな声が聞かれたときには大きな喜びを感じました。また家事を行うことが面倒に思い始めていた方がヘルパーと共に献立を考えたり、さらにはご自分からモップを持って掃除にとりかかる姿にはこれからの生活に対する思いが感じられます。

"住み慣れた我が家で自分らしく過ごしたい"その思いを受け止め、日々ヘルパーの仕事に励んでいます。

"信頼"を支えに

— 九十九里ホーム山田ヘルパーステーション —

九十九里ホーム山田ヘルパーステーションは、現在、1市1町にお住まいのご利用者の援助を行っていますが、ご利用のうちおよそ9割が山田町の方々です。

ご利用者の中には独居の方も多く、主に買い物や掃除などの生活援助をご利用されています。お一人お一人のご利用者がヘルパーの訪問を心待ちにしてくださり、ヘルパーも大きな励みとなっています。

ヘルパーも訪問時にはご利用者とのコミュニケーションを大切にし、いつまでもご自宅で生活できるように援助していけることを目標にしています。プロとしての仕事の重さを実感しながら、ヘルパーとケアマネジャーとの連携が取りやすい当事業所の利点を生かし、今後も信頼される地域の事業所として活動を展開していきたいと考えています。

大相撲 木瀬部屋力士との交流会大盛況

九十九里ホーム山田特別養護老人ホーム

平成17年8月17日、NPO法人ひがた八萬石のご紹介で、九十九里ホーム山田特別養護老人ホームにおいて、初めて大相撲木瀬部屋の力士の方々と交流会が行われました。

木瀬部屋は元肥後ノ海・木瀬親方が率いており毎年8月中旬に東庄町にある「伊勢家」に合宿に来ています。交流会には、当法人内の他施設のご利用者も参加されました。力士の方々に実際に取り組みを披露していただき、また職員との取り組みでは、利用者の皆様は、その迫力にとっても驚かれ大歓声をあげておられました。また、質疑応答では「食事はどのくらいの量を食べるのか」、「部屋には何人くらい力士の方がいるのか」等々、ご利用者からたくさんの質問が出されるなど、大いに盛り上がりました。



最後にご利用者との握手会や写真撮影会では、皆様の素敵な笑顔が見られ大変素晴らしい交流会となりました。

義歯刻印・清掃ボランティアありがとうございました

養護老人ホーム瑞穂園

平成17年6月12日、(社)千葉県歯科技工士会のご協力により、ご利用者の義歯刻印及び清掃活動が行われました。これは、技工士会の皆様がボランティアで行っている活動です。当日は、地元の八日市場市匝瑳郡歯科医師会の平野先生はじめ、東総地区の技工士の方12名、歯科衛生士の方2名が来園下さいました。作業工程は、義歯を消毒し、汚れを落とし、義歯に5ミリほどの溝を彫り氏名札を入れ、コーティングという流れです。作業は午前中に、入所の皆様の昼食に間に合うように行っていただきました。出来上がった義歯は、生まれ変わったように綺麗に磨かれており、この日の昼食はいつもまして美味しく味わっていただけたと感じました。



今では、洗面所に置き忘れることがあっても、名前が入っていますので間違うこともなくなり、大変助かっています。千葉県歯科技工士会の皆様はじめ、ご協力下さった皆様、日曜日早朝より、本当にありがとうございました。

スポーツ整形外科はじめました!!

九十九里ホーム病院



リハビリスタッフと共に指導をする岡崎院長

九十九里ホーム病院では、平成17年9月より、スポーツ整形外科を開設しました。
(外来は毎週月曜日 午後2時～3時30分まで受付)

担当の岡崎院長を始め、数名の若さ溢れる燃える理学療法士・作業療法士をスタッフとして、揃えています。

スポーツには、夢と感動とロマンがあります。しかし、勝ち負けを競うスポーツに置き換えた場合には、「使いすぎ症候群」をはじめ、いろいろな問題が生じてきます。

スポーツドクターの役割として、主にスポーツ障害（故障）や外傷の予防と治療があります。これらの疾患に対処するには、適切な休養、フォームの改善、筋力トレーニングやストレッチなどの正しい方法が必要です。

また、早期復帰を重点的に考えなければいけないので、治療法が一般整形外来より、積極的になってきます。

スポーツ医学の究極の目的は、健康づくり・体力づくりにも関与して、人生を健やかにエンジョイできる様にする事です。

当院のスポーツ整形外科の御利用をスタッフ一同、お待ちしております。

血管推定年齢測定サービスを実施 ～看護の日～

平成17年5月12日から18日まで、九十九里ホーム病院では血管推定年齢測定サービスを実施いたしました。

今回のサービスは、例年行われている看護の日の行事の一環として、職員が地域の方々へ何か出来る事はないかと相談を重ねた上、実施へとつながりました。

187名の方がサービスを利用され、日頃なかなか知る機会の少ないご自分の血管推定年齢に驚いたり、喜んだりする姿が見受けられました。今回のサービスを良い機会とし、皆さんお一人、お一人がご自分の健康に気をつけていただけるようになってもらえればと願っています。

今後も、患者の方々はもちろん、地域の方々に対しても、満足し喜んでいただける看護サービスを提供していける様に看護職員一同努めていきたいと思っております。

安全運転はまず自分から

—— 交通安全研修会を実施しました ——

交通事故は本人や家族を一瞬にして不幸にします。当法人ではご利用者の送迎中や職員通勤中の交通事故を減らすと共に、交通安全の意識の向上を図るために、平成13年10月から各施設で交通安全委員を選出し、安全運転の啓蒙に取り組んでいます。委員の活動のひとつとして、当法人の全職員を対象とした交通安全研修会を開催しています。平成17年度は、第一回目の研修を損害保険会社の専門家である長森様にお願ひしました。「交通事故は防げる（防衛運転）」と題して講演をいただき、180名以上の職員が参加しました。



「研修会に参加するまでは青信号に変わったらすぐに進み、黄信号に変わるとアクセルを踏み込み、急いで走りすぎていました。いつかは自分も事故をおこしていたかもしれません。しかし、研修会に参加して安全運転義務があることを知ってからは、青信号に変わったらす左右を確認してから進むようになりました。また、防衛運転に心がけ、日頃から落ち着いて行動できるようにします。このような研修会に参加すると自覚が高まり、とてもよいと思います。」とある職員は感想を述べています。その他としては、事故の恐さがわかった、事故の原因が理解できた、交差点ではブレーキを踏むようになった、など職員の安全運転の意識は向上しています。今後も定期的に研修会を行い、交通安全意識のより一層の向上に努めてまいります。

Catch The Victory (勝利をつかめ)

—— 野球同好会結成 ——



昨年の秋、藤田病院との練習試合で2対7と惜敗し、この試合後、選手たちから「定期的にもっと練習がしたい」「公式戦に出たい」等の声があがり、今年6月に"九十九里ホーム野球同好会"が結成されました。

この同好会で初めて顔を合わせる職員もあり、「交流、親睦を深める」という役割も併せもっています。

現在、会員数は約30名。光町営グラウンドにて、月に2～3回のペースで夜6時から約

3時間の練習を行っています。練習には、毎回、20名程度の会員が参加。キャッチボールをはじめ、ノック（守備練習）、打撃練習等、短い時間の中で少しでも質が高く効率の良い練習を行うよう心がけています。

今後の目標は公式戦に出場し、1勝を挙げる事です。

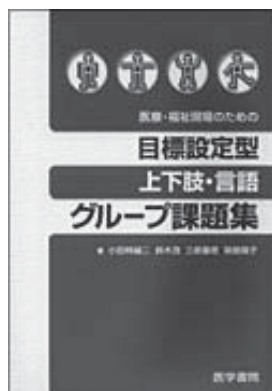
皆さんの応援が"力"になります。今後の"野球同好会"をよろしくお願ひします。

九十九里ホームの概要と経営内容が本に掲載

全国の優れた福祉施設経営の実例を紹介した『変革期の福祉経営戦略』（日本医学出版）が出版されました。九十九里ホームも「病院を中核とした総合的な福祉施設の建設を目指して」として一事例で掲載されています。この本は、国際医療福祉大学大学院における講座内容をまとめたもので、全国の病院や福祉施設の経営者や関係者が講師となっており、当法人の井上理事長も同大学院よりの要請により、昨年当法人の概要、歴史、経営内容などについて、講義を行いました。是非ご一読いただければ幸いです。



リハビリのグループ課題集が出版されました みんなで楽しく



この度、九十九里ホーム病院リハビリテーション科で、入院患者様のリハビリの一環として行ってきたグループ訓練89課題が編集された『医療・福祉現場のための 目標設定型 上下肢・言語グループ課題集』（医学書院）が出版されました。本書では参加者の能力や意欲を引き出し、不安を解消、満足を得るためのきっかけ作りを提案しています。多くの方にお読みいただければと思います。

〈問い合わせ先〉 九十九里ホーム病院 総務担当 TEL 0479-72-1131

家族の会より車両寄贈

松丘園・デイサービス家族の会「まつぼっくり」より、3台目となる福祉車両の御寄贈をいただきました。シンボルマークの「まつぼっくり」も、すっかり松丘園の顔となり、地域の方にも覚えていただける様になりました。利用者の方の外出、通院、ショートステイ、デイサービスの送迎等に有効に活用させていただきます。ありがとうございました。



助成事業の報告

「財団法人 こども未来財団」より保育遊具等の購入費用を助成していただき、託児所で新たな遊具設備「サンダース号」を設置しました。



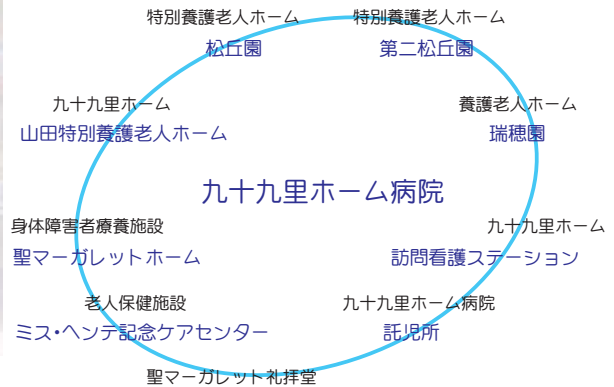
サンダース号で遊ぶ子供たち

本託児所は、九十九里ホーム病院に勤務する看護職員の子供たちを預かる施設で、子供たちは、大変喜んでサンダース号で楽しく遊んでいます。



法人本部全景

九十九里ホームネットワーク



障害者の相談に応じます!

聖マーガレットホームでは、平成17年度から千葉県指定を受けて障害者相談支援事業を行っています。

- 内 容 在宅の障害者ご自身やその家族のいろいろな相談にお答えします。また、こちらで対応できない場合には、適切な場所をご紹介します。
ア：在宅生活の相談（自立生活の支援、家族の介護相談を含む）
イ：余暇活動の支援や障害者グループの紹介
ウ：在宅リハビリの指導・助言
エ：福祉施設の紹介や斡旋（デイサービスや短期利用を含む）
オ：その他



- 種 類 訪問相談 直接ご自宅に訪問し、相談を行います。
外来相談 施設に来ていただき、相談を行います。

- 利用時間 午前8時より午後5時までを原則としますが、急用の場合にはご相談下さい。

- 対応者 施設長、生活支援員、介護長（主任）、看護師長、栄養士、理学療法士、作業療法士などの専門職員が相談者の立場に立って対応します。



- 相談料 訪問、外来ともに無料です。

- 問い合わせ先 聖マーガレットホーム TEL 0479-79-1905
(担当 宇津木まで) FAX 0479-79-1906
E-mail: seimarga583@sunny.ocn.ne.jp

今までの主な相談内容

「他県から越してきたが、自宅にいてもやることがない。」という相談。地元の障害者活動グループを紹介する。

「退院後の生活が不安である。」との相談。市の担当者や家族とホームヘルパーや短期利用（他施設も含めて）について相談する。